

内装材の使用実態とニーズについて

技術部 製品開発グループ 松本久美子
 性能部 居住環境グループ 秋津裕志

はじめに ~調査目的と概要~

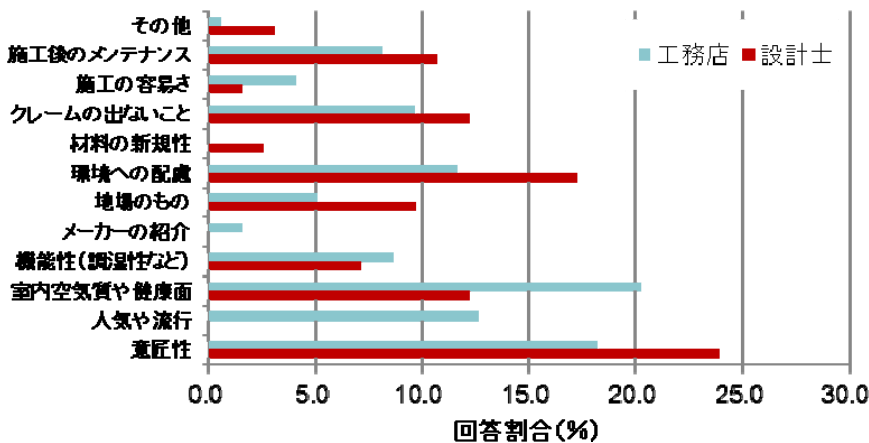
北海道産針葉樹材を内装材として用途拡大していくためには、現状の住宅内装材の使用実態や木材の内装用途への使用意向、問題点等を把握する必要があります。そこで、住宅供給側として設計士（日本建築家協会北海道支部会員）と工務店（北方型住宅ECO推進協議会会員）に対し、アンケート調査を行いました。

調査は2011年11月～12月にかけて、郵送した調査用紙に記入していただく方式で行いました。回収率は、設計士が**39.9%**（67/168件）、工務店が**40.2%**（68/169件）でした。



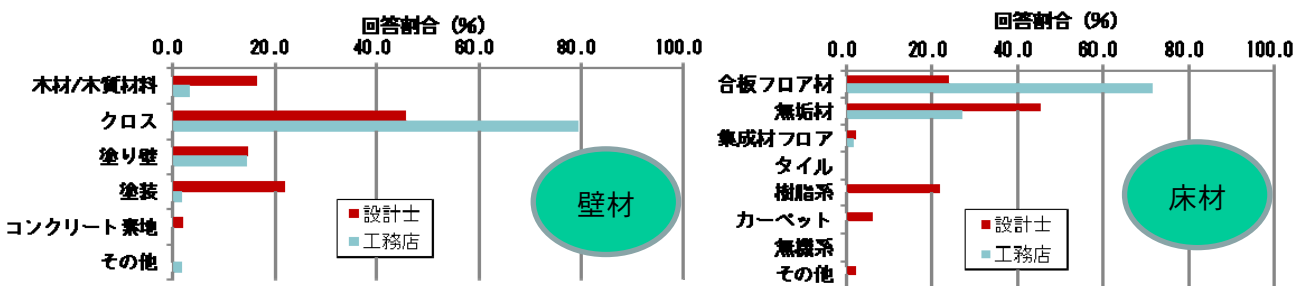
トドマツの腰壁の住宅の内装使用例

住宅内装材の選定基準とよく使われる材料



内装材を選定する際の基準（※価格を除く）

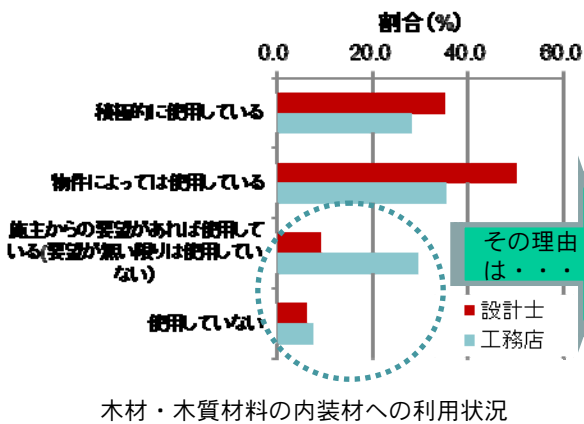
材料の持つ良い側面を積極的に考慮すると、「意匠性」「環境への配慮」が基準となる割合が高くなり、施工後の現実的な側面を考慮すると、「クレームの出ないこと」「施工後のメンテナンス」が選択基準になるものと思われます。それ以外に「室内空気質や健康面」が高い割合を示しました。



よく使われる材料

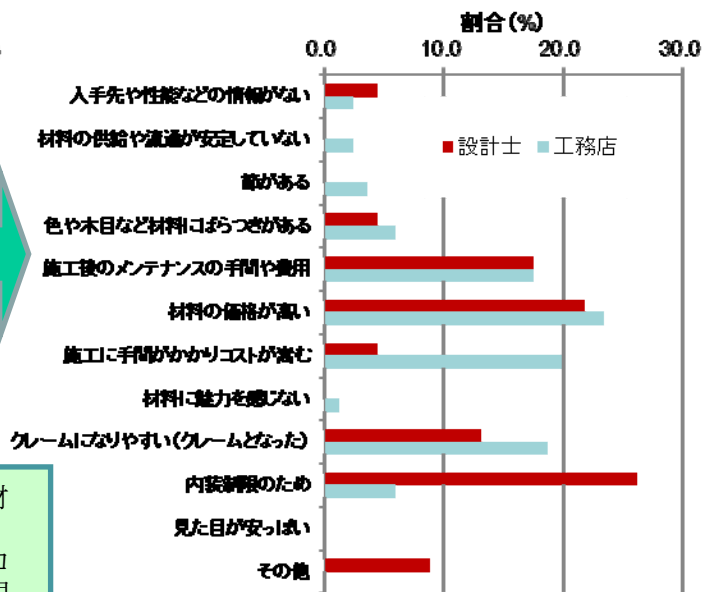
価格や「クレーム」「メンテナンス」を考慮すると、壁材ではクロスが、床材では合板フロア材が選択されますが、価格の他、「意匠性」や「環境への配慮」等を考慮すると、壁材では木材や塗り壁、床材では無垢材が選択肢に加わるものと思われます。

木材・木質内装材の利用状況



木材・木質材料の内装材への利用状況

設計士では約15%，工務店では約37%が木材を内装材に使用していないという状況でした。その理由は、材料・施工・メンテナンスにコストがかかること、クレームの問題、内装制限というものでした。

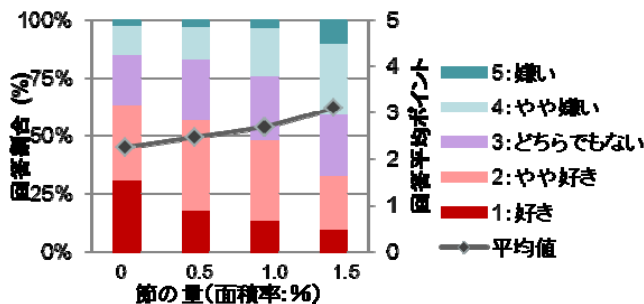


木材・木質材料を内装材に使用していない理由

調査から明らかとなった木材に対するクレームや要望

- ・乾燥や湿潤による、割れ、そりなどの変形、収縮・膨潤などの寸法変化がクレームの大半を占めました。
 - ・木材特有の材料のバラツキ・節（目立つ・抜け節）等に起因するクレームもありました。
 - ・木材に対する要望は材料コストの低減が最も多く、その他製品のバリエーションに関するものもありました。
- 材料コストの低減や、材料のバラツキ・節の問題など研究課題の中で検討を実施中

節に関する検討：節の見え方について ～心理評価による検討～



節面積率 0% 節面積率 1.5%

心理評価に使用した画像の一例

- ・節の面積1.0%までは「好き」「やや好き」と評価した人が半数近くを占め、ポイントも「好き」側の値でした。
- ・今後は、公共建築物や店舗など、住宅以外の場所について、節の見え方との関連を検討していく予定です。

【謝辞】

アンケート調査にご協力いただいた、日本建築家協会北海道支部・北方型住宅ECO推進協議会様に感謝いたします。本調査は、新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「ITにより低コストに人工木材から内装材を製造する生産加工システムの開発」の一環として実施しました。